

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果 京都市立向島秀蓮小中学校

4月18日に本校6年生対象に実施されました「全国学力・学習状況調」結果についてまとめました。6年生では、国語、算数の2教科のテストと質問紙（家庭での過ごし方や学習時間などの質問に回答する）調査が実施されており、学力と生活習慣の関係について本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国 語 科 よ り

国語への関心・意欲・態度は全国より高い結果が出ています。「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」では全国平均より4ポイント近く上回り、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えを書く」でも全国平均を上回る結果でした。そのことから意図を考え、捉えながら自分の考えをもつことができ、表現できていることが言えると思います。また、「接続詞を使って内容を分けて書くこと」でも全国平均を上回っていることから相手を意識した文章を書く大切さに気付いていると思います。

しかし、文章を書く上で既習した漢字を正しく使うことに関しては正答率が低く、無回答率が高い傾向が見られます。また、回答が記述式の問いに対しても無回答率が高くなっています。自分の思いや考えを伝えあう、わかりやすく伝えあうことは人とのかかわりの中で培われることもあります。国語の学習だけでなく他教科や日常生活の中でも培われることが大切です。

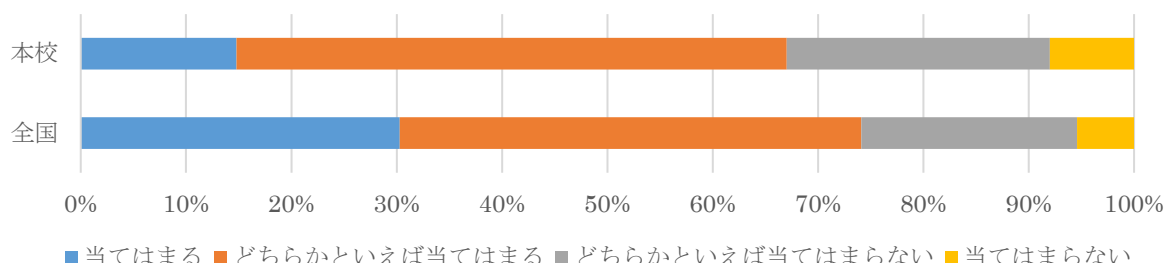
算 数 科 よ り

「目的に適して伴って変わる二つの数量を見いだすことができる」では、正答率が82.6%と全国平均と同等であった。また「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる」では95.3%と全国平均を上回る結果となった。図形について理解していたり、表を使って求めたり数量や図形についての知識・理解を問う問題が良好な結果が表れた。しかし、数学的な考えを問う問題や、記述式に回答する問題など解答率が低い結果となった。求め方や説明を記述することが課題となり、今後、国語と関連付けながら説明する力の向上を目指していきたい。

全国平均に比べ、無解答率が低く、これまで学習したことをいかして解答を導き出そうと努力していることが考えられる。あきらめずに問題に取り組む姿勢を維持しながら、自分の考えをもたせ説明する機会を増やすことで自ら学ぶ力の育成へとつながると考えています。

児童質問紙調査より①

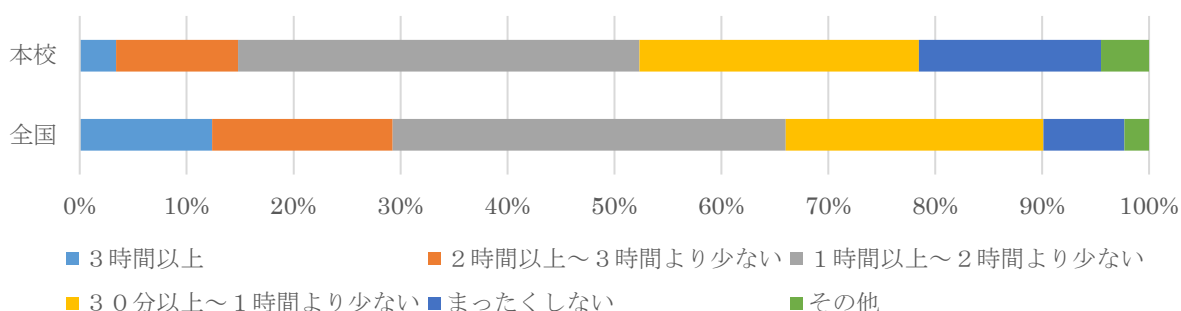
(質問) 学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



自分の考えを深めたり、広げたりできているかの回答で「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と回答している生徒が30%以上あることを真摯に受け止め、自分の考えを伝え合う機会を設けています。どの教科に対しても、生徒が主体的、対話的に学べるように授業展開を工夫しています。また、行事などもめあてをもって取り組み、終わった後の振り返りを大切にし、互いに思いや考えを伝え合う機会を設けます。

児童質問紙調査より②

(質問) 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



家庭での学習時間が1時間以内の生徒が50%近くある結果となっています。学習時間の基準は15分×学年数と言われます。学校からは授業の予習・復習など課題を出していますが、学習する習慣づけに留まっています。自学自習の習慣をつけるためにも、自主学習を取り入れることが必要となります。家庭と連携しながら、自分に合う学習方法をみつけ、自ら考え学習する力の向上を図っていきます。